

# 横浜市立杉田小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	①生活科・杉田の時間（総合的な学習の時間）を充実させて、意欲的に学び、共に高め合う子どもを育みます。②話し合いや発表する活動、じっくり考え問題解決を図る活動など、指導方法の工夫、改善に努めます。③家庭での家庭学習の確立など、個に応じた家庭学習のあり方について家庭との連携を図ります。	重点研究（学校全体）で取り組んでいるので、話し合いの積み重ねや発表の場の確保が意識され、課題に向け解決する力が付いてきている。さらに高めあう力や他教科での姿勢を伸ばしたい。家庭学習の定着はできている。	A B C D
2 豊かな 心	①自分を大切にすること、他人を思いやる心、規範意識など、子どもたち一人ひとりの豊かな人間性を育む道徳教育の充実を図ります。また、授業参観日には全クラス道徳の授業を公開します。②異学年交流を通じて、高学年の子が低学年の子を思いやり、低学年の子が高学年の子を慕う心情を養うようにします。	年間の異学年交流や幼保小連携により、下学年や年下の子を思いやる心が育ってきた。しかし、規範意識や挨拶の態度は、まだまだできていない児童も多い。	A B C D
3 健やかな 体	①健康教育を推進するとともに、新体力テストの結果を分析し、体力向上実践活動に取り組みます。体育科教育課程及び授業を見直し改善に取り組みます。②休み時間は、外遊びを励行し、子どもたちの遊びの中から体力づくりを目指します。また杉田つ子体操を考案し全校で取り組むことで、心身ともに健康な子を育てようとしています。	大縄跳びによる全校の取り組みにより、授業や休み時間での活動が盛んになってきた。杉田つ子体操（ストレッチ）の充実に取り組み、成果を上げたい。体育の用具や年間学習計画の見直しをして、学習活動の充実に努める。	A B C D
4 教育課程 学習指導	①学校教育目標「このまち大好き」を深化・発展させるために、杉田の「まち」のマンスパー、貝塚や杉田梅といった歴史、身近に感じる産業や区ネットワーク等、地域の特色を生かした単元づくりに取り組みます。②各教科との関連を図った横断的・総合的な学習「杉田の時間」を通して、思考力・判断力・コミュニケーション力を育成します。	「まち」の材（人、機関：保育園など、施設：公園など）を活かし繰り返し関わることで、児童に興味関心をもたせたり、自己解決させたりすることができた。各学年で行った題材を、他の児童や教師同士が見えるようにしたい。	A B C D
児童指導	①偏見や差別、いじめを許さない指導を全教職員による体制で取り組み、子どもたちの人権感覚を培います。②全ての教育活動を通して、生き物の命の大切さを理解させるとともに、他者や自分の生命の尊さを理解できるようにします。平成24年度は、子どもの作品や花いっぱい環境づくりに努め、「事故0、不登校0、いじめ0」の学校を目指します。	小動物の飼育や植物の栽培を通して、生き物を大切にすることを育てることができた。人権感覚を培うために、朝会等を使って呼びかけするなど、児童指導として、全校で取り組みや指導する場面があるとよい。	A B C D
特別支援	①「今の子どもへの支援は、できることから今すぐ」との姿勢で、校内委員会を中心に支援の方法等について共通理解を図り、具体的な行動ができるようにします。平成24年度も、全職員で毎月定期的に委員会を開きます。②インクルージョンの考え方に基いた特別支援教育を推進します。学校カウンセラー、療育センター、特別支援教育総合センター等との連携を密にし、子どもたちが安心して学び合い、育ち合うことができる場になるよう努めます。	支援が必要な児童に対して、学校カウンセラーや個別学習支援等の配慮が充実してきた。職員の間で共通理解や児童・保護者への対応についても、専任・養護教諭、通級担任、学校カウンセラー、SSWなどが関わり、チームとして取り組みが充実しつつある。	A B C D
人材育成 組織運営	①常に子どもとともにある教師、日々、自己啓発に挑戦する教師、人間性豊かな教師であることに努力します。学校経営方針を踏まえ自己の職務上の目標を設定し、開発・向上を目指す自己観察書とキャリアプランの作成を軸として、教師としての夢や希望を描き、そのための見直しを立てて、資質の向上に努めるようにします。②教職員一人ひとりが子どもにとっての教育環境であることから、自己啓発とともに、言葉遣い、身だしなみ、挙指に気を付けるとともに、教職のコンプライアンス、時間や締め切りの厳守、公費の有効適切な管理に努めるようにします。	学年研を通して、模擬授業を行ったり、学級経営や学年経営、学習指導について学年で情報交換をしたりできた。自己啓発や自己研修には、計画的な時間の確保をさらに強く心がけたい。教師1人ひとりが日常の身だしなみや言葉遣いに気を付け、児童の教育環境の一つとして、振る舞いを意識できていた。	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	小中一貫教育での合同授業研究では、小中のつながりの見通しを持つことができ、普段の授業で意識した指導につながった。杉田スタンダードを作成したことで、持ち物の管理を一元化することができ、教師の共通理解と児童自身の判断基準の明確化ができた。さらに卒業生が進学しても校則に戸惑わないような配慮にもなっている。小中一貫授業研究会の開催により、本年度は小学校の学習内容を中学校の先生方に参加していただき、児童指導だけでなく教科での小中のつながりについての見直しをもつことができた。合同授業研究だけでなく、相互の教師交流により、学校生活のリズムや児童への滝追うなどにおいても、共通理解を持つ機会をもつことができた。		
学校関係者 評価結果	重点研究として取り組んできた生活科・杉田の時間について、各クラスがこの一年間取り組んできた成果としての発表会の様子を具体的な子供の姿を通して見てもらうことで、まちの歴史や商店街などが、子どもたちの意欲的な学びにつながっており、生活科・杉田の時間が、子どもたちの生活や体験に裏付けされた学習であることが高く評価された。これまでの授業参観のようにとらえていた保護者が、子どもたちの中に入りきれず戸惑っていた。		
評価結果に 対する 学校の見解	学校関係者評価結果に手ごたえを感じる部分については、今後も充実した学習となるように取り組んでいく。特に、生活科・杉田の時間の保護者の理解については、学校側が感じているよりも理解されていない部分がありそう。しっかりと学習のねらいや取組での成果を伝えていくようにする。豊かな心と児童指導の取組の徹底が、次年度の課題としたい。		

学校経営 中期目標 達成状況	「確かな学力」、「教育課程 学習指導」における生活科・杉田の時間での成果が保護者や学校関係者評価の中に感じられた。反面、「豊かな心」「児童指導」においては、ルールや時間を守る規範意識の態度やあいさつする姿に、課題を感じる自己評価の声を聞く。前段の成果を伸ばしつつ、後段の課題にさらに取り組んでいくことが必要と感じる。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	①生活科・杉田の時間（総合的な学習の時間）を充実させて、意欲的に学び、共に高め合う子どもを育みます。②話し合いや発表する活動、じっくり考え問題解決を図る活動など、指導方法の工夫、改善に努めます。③家庭での家庭学習の確立など、個に応じた家庭学習のあり方について家庭との連携を図ります。	重点研で取り組むことにより、子どもの興味・関心を生かした授業を行い、課題を解決したり自分の考えを伝えたりする力が付いてきている。さらに、高めあう力を伸ばしたい。	A B C D
2 豊かな 心	①自分を大切にすること、他人を思いやる心、規範意識など、子どもたち一人ひとりの豊かな人間性を育む道徳教育の充実を図ります。また、授業参観日には全クラス道徳の授業を公開します。②異学年交流を通じて、高学年の子が低学年の子を思いやり、低学年の子が高学年の子を慕う心情を養うようにします。	計画的に異学年交流や幼保小連携を行い、下学年や友達を思いやる心が育ってきている。全校であいさつ運動に取り組んでいるが、あいさつや規範意識が身に付いていない児童も多い。	A B C D
3 健やかな 体	①健康教育を推進するとともに、新体力テストの結果を分析し、体力向上実践活動に取り組みます。体育科教育課程及び授業を見直し改善に取り組みます。②休み時間は、外遊びを励行し、子どもたちの遊びの中から体力づくりを目指します。また杉田つ子体操を考案し全校で取り組むことで、心身ともに健康な子を育てようとしています。	全校による大縄跳び集会や休み時間に教師が校庭で一緒に遊ぶことにより外遊びをする子どもは増えてきている。新体力テストの分析から、さらに体力向上にむけて学習活動の充実を努めたい。	A B C D
4 教育課程 学習指導	①学校教育目標「このまち大好き」を深化・発展させるために、杉田の「まち」のマンスパー、貝塚や杉田梅といった歴史、身近に感じる産業や区ネットワーク等、地域の特色を生かした単元づくりに取り組みます。②各教科との関連を図った横断的・総合的な学習「杉田の時間」を通して、思考力・判断力・コミュニケーション力を育成します。	わくわく（カルチャー）や杉田の時間に「まち」の材（人、機関、公園）とかかわり、地域の特色を生かした学習を行った。杉田の時間では、教科の関連を図り、思考力やコミュニケーション力を育てることができた。	A B C D
児童指導	①偏見や差別、いじめを許さない指導を全教職員による体制で取り組み、子どもたちの人権感覚を培います。②全ての教育活動を通して、生き物の命の大切さを理解させるとともに、他者や自分の生命の尊さを理解できるようにします。平成26年度は、子どもの作品や花いっぱい環境づくりに努め、「事故0、不登校0、いじめ0」の学校を目指します。	y p アセスメントによりクラスの状態を把握し、定期的に校内会議を開き職員間で情報を共有し児童理解を深め対応した。小動物や植物の栽培を通して、生き物を大切にすることを養った。	A B C D
特別支援	①「今の子どもへの支援は、できることから今すぐ」との姿勢で、校内委員会を中心に支援の方法等について共通理解を図り、具体的な行動ができるようにします。平成26年度も、全職員で毎月定期的に委員会を開きます。②インクルージョンの考え方に基いた特別支援教育を推進します。学校カウンセラー、療育センター、特別支援教育総合センター等との連携を密にし、子どもたちが安心して学び合い、育ち合うことができる場になるよう努めます。	学校カウンセラーと教職員が連携を密にし、情報の共有が図られた。児童、保護者への対応についても、専任・養護教諭・通級担任・学校カウンセラー等がかかわりチームとして取り組むことができた。クラスの担任は、児童が安心して過ごせるように心がけた。	A B C D
人材育成 組織運営	①常に子どもとともにある教師、日々、自己啓発に挑戦する教師、人間性豊かな教師であることに努力します。学校経営方針を踏まえ自己の職務上の目標を設定し、開発・向上を目指す自己観察書とキャリアプランの作成を軸として、教師としての夢や希望を描き、そのための見直しを立てて、資質の向上に努めるようにします。②教職員一人ひとりが子どもにとっての教育環境であることから、自己啓発とともに、言葉遣い、身だしなみ、挙指に気を付けるとともに、教職のコンプライアンス、時間や締め切りの厳守、公費の有効適切な管理に努めるようにします。	校内で様々な研修を行い、研さんを積むことができた。学年内では、学級経営や学年経営・教材研究・学習指導について情報を交換し日々の指導に生かすことができた。教師一人一人自身が教育環境であることを自覚して過ごしている。自己啓発や自己研修に対して、計画的な時間の確保を心がけた。	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	杉田スタンダードを小中一貫の中で共通性を持たせて作成していることで、持ち物の管理を一元化することができると共に、教師の共通理解と児童自身の判断基準の明確化ができた。さらに卒業生が進学しても校則に戸惑わないような配慮にもなっている。小中一貫授業研究会の開催により、本年度は小学校の学習内容を中学校の先生方に参加していただき、児童指導だけでなく教科での小中のつながりについての見直しをもつことができた。合同授業研究だけでなく、相互の教師交流により、学校生活のリズムや児童への滝追うなどにおいても、共通理解を持つ機会をもつことができた。		
学校関係者 評価結果	年5回の学校運営協議会を通して、学校が力を入れている取組の様子を、児童の姿を通してみてきました。どの場面においても、生き生きとした子供たちの姿が印象に残りました。		
評価結果に 対する 学校の見解	学校が力を入れている取組で、子どもの生き生きとした姿が多く見られたとの評価をいただいたので、さらに子どもの興味・関心を生かした授業を行い、課題を解決したり自分の考えを伝えたりする力を伸ばしたい。生活科・杉田の時間に関して保護者の理解が深まってきている。今後も学習のねらいや成果を伝えていく。		

学校経営 中期目標 達成状況	「確かな学力」、「教育課程 学習指導」における生活科・杉田の時間、わくわく（カルチャー）での成果が保護者や学校関係者評価に感じられた。「豊かな心」においては、ルールや時間を守る規範意識の態度やあいさつする姿に、課題を感じる自己評価が多かった。また、「健やかな体」についても体力向上のための学習活動の充実を図る必要を感じている。成果の部分在今后さらに伸びるように、課題に関しては改善を目指して指導・支援を行う。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	①生活科・杉田の時間（総合的な学習の時間）を充実させて、意欲的に学び、共に高め合う子どもを育みます。②話し合いや発表する活動、じっくり考え問題解決を図る活動など、指導方法の工夫、改善に努めます。③家庭での家庭学習の確立など、個に応じた家庭学習のあり方について家庭との連携を図ります。	①自分を大切にすること、他人を思いやる心、規範意識など、子どもたち一人ひとりの豊かな人間性を育む道徳教育の充実を図ります。また、授業参観日には全クラス道徳の授業を公開します。②異学年交流を通じて、高学年の子が低学年の子を思いやり、低学年の子が高学年の子を慕う心情を養うようにします。	A B C D
2 豊かな 心	①自分を大切にすること、他人を思いやる心、規範意識など、子どもたち一人ひとりの豊かな人間性を育む道徳教育の充実を図ります。また、授業参観日には全クラス道徳の授業を公開します。②異学年交流を通じて、高学年の子が低学年の子を思いやり、低学年の子が高学年の子を慕う心情を養うようにします。	①自分を大切にすること、他人を思いやる心、規範意識など、子どもたち一人ひとりの豊かな人間性を育む道徳教育の充実を図ります。また、授業参観日には全クラス道徳の授業を公開します。②異学年交流を通じて、高学年の子が低学年の子を思いやり、低学年の子が高学年の子を慕う心情を養うようにします。	A B C D
3 健やかな 体	①健康教育を推進するとともに、新体力テストの結果を分析し、体力向上実践活動に取り組みます。体育科教育課程及び授業を見直し改善に取り組みます。②休み時間は、外遊びを励行し、子どもたちの遊びの中から体力づくりを目指します。また杉田つ子体操を考案し全校で取り組むことで、心身ともに健康な子を育てようとしています。	①健康教育を推進するとともに、新体力テストの結果を分析し、体力向上実践活動に取り組みます。体育科教育課程及び授業を見直し改善に取り組みます。②休み時間は、外遊びを励行し、子どもたちの遊びの中から体力づくりを目指します。また杉田つ子体操を考案し全校で取り組むことで、心身ともに健康な子を育てようとしています。	A B C D
4 教育課程 学習指導	①学校教育目標「このまち大好き」を深化・発展させるために、杉田の「まち」のマンスパー、貝塚や杉田梅といった歴史、身近に感じる産業や区ネットワーク等、地域の特色を生かした単元づくりに取り組みます。②各教科との関連を図った横断的・総合的な学習「杉田の時間」を通して、思考力・判断力・コミュニケーション力を育成します。	①学校教育目標「このまち大好き」を深化・発展させるために、杉田の「まち」のマンスパー、貝塚や杉田梅といった歴史、身近に感じる産業や区ネットワーク等、地域の特色を生かした単元づくりに取り組みます。②各教科との関連を図った横断的・総合的な学習「杉田の時間」を通して、思考力・判断力・コミュニケーション力を育成します。	A B C D
児童指導	①偏見や差別、いじめを許さない指導を全教職員による体制で取り組み、子どもたちの人権感覚を培います。②全ての教育活動を通して、生き物の命の大切さを理解させるとともに、他者や自分の生命の尊さを理解できるようにします。平成26年度は、子どもの作品や花いっぱい環境づくりに努め、「事故0、不登校0、いじめ0」の学校を目指します。	①偏見や差別、いじめを許さない指導を全教職員による体制で取り組み、子どもたちの人権感覚を培います。②全ての教育活動を通して、生き物の命の大切さを理解させるとともに、他者や自分の生命の尊さを理解できるようにします。平成26年度は、子どもの作品や花いっぱい環境づくりに努め、「事故0、不登校0、いじめ0」の学校を目指します。	A B C D
特別支援	①「今の子どもへの支援は、できることから今すぐ」との姿勢で、校内委員会を中心に支援の方法等について共通理解を図り、具体的な行動ができるようにします。平成26年度も、全職員で毎月定期的に委員会を開きます。②インクルージョンの考え方に基いた特別支援教育を推進します。学校カウンセラー、療育センター、特別支援教育総合センター等との連携を密にし、子どもたちが安心して学び合い、育ち合うことができる場になるよう努めます。	①「今の子どもへの支援は、できることから今すぐ」との姿勢で、校内委員会を中心に支援の方法等について共通理解を図り、具体的な行動ができるようにします。平成26年度も、全職員で毎月定期的に委員会を開きます。②インクルージョンの考え方に基いた特別支援教育を推進します。学校カウンセラー、療育センター、特別支援教育総合センター等との連携を密にし、子どもたちが安心して学び合い、育ち合うことができる場になるよう努めます。	A B C D
人材育成 組織運営	①常に子どもとともにある教師、日々、自己啓発に挑戦する教師、人間性豊かな教師であることに努力します。学校経営方針を踏まえ自己の職務上の目標を設定し、開発・向上を目指す自己観察書とキャリアプランの作成を軸として、教師としての夢や希望を描き、そのための見直しを立てて、資質の向上に努めるようにします。②教職員一人ひとりが子どもにとっての教育環境であることから、自己啓発とともに、言葉遣い、身だしなみ、挙指に気を付けるとともに、教職のコンプライアンス、時間や締め切りの厳守、公費の有効適切な管理に努めるようにします。	①常に子どもとともにある教師、日々、自己啓発に挑戦する教師、人間性豊かな教師であることに努力します。学校経営方針を踏まえ自己の職務上の目標を設定し、開発・向上を目指す自己観察書とキャリアプランの作成を軸として、教師としての夢や希望を描き、そのための見直しを立てて、資質の向上に努めるようにします。②教職員一人ひとりが子どもにとっての教育環境であることから、自己啓発とともに、言葉遣い、身だしなみ、挙指に気を付けるとともに、教職のコンプライアンス、時間や締め切りの厳守、公費の有効適切な管理に努めるようにします。	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	小中一貫教育での合同授業研究では、小中のつながりの見通しを持つことができ、普段の授業で意識した指導につながった。杉田スタンダードを作成したことで、持ち物の管理を一元化することができ、教師の共通理解と児童自身の判断基準の明確化ができた。さらに卒業生が進学しても校則に戸惑わないような配慮にもなっている。小中一貫授業研究会の開催により、本年度は小学校の学習内容を中学校の先生方に参加していただき、児童指導だけでなく教科での小中のつながりについての見直しをもつことができた。合同授業研究だけでなく、相互の教師交流により、学校生活のリズムや児童への滝追うなどにおいても、共通理解を持つ機会をもつことができた。		
学校関係者 評価結果	重点研究として取り組んできた生活科・杉田の時間について、各クラスがこの一年間取り組んできた成果としての発表会の様子を具体的な子供の姿を通して見てもらうことで、まちの歴史や商店街などが、子どもたちの意欲的な学びにつながっており、生活科・杉田の時間が、子どもたちの生活や体験に裏付けされた学習であることが高く評価された。これまでの授業参観のようにとらえていた保護者が、子どもたちの中に入りきれず戸惑っていた。		
評価結果に 対する 学校の見解	学校関係者評価結果に手ごたえを感じる部分については、今後も充実した学習となるように取り組んでいく。特に、生活科・杉田の時間の保護者の理解については、学校側が感じているよりも理解されていない部分がありそう。しっかりと学習のねらいや取組での成果を伝えていくようにする。豊かな心と児童指導の取組の徹底が、次年度の課題としたい。		

学校経営 中期目標 達成状況	「確かな学力」、「教育課程 学習指導」における生活科・杉田の時間での成果が保護者や学校関係者評価の中に感じられた。反面、「豊かな心」「児童指導」においては、ルールや時間を守る規範意識の態度やあいさつする姿に、課題を感じる自己評価の声を聞く。前段の成果を伸ばしつつ、後段の課題にさらに取り組んでいくことが必要と感じる。
----------------------	--

※ 当該年度の達成状況 : A … 十分達成    B … 概ね達成    C … 努力必要    D … 改善必要